

平成 3 0 年度研究開発評価人材育成研修（初級）アンケート集計結果

（開催概要）

- ◆平成 30 年度研究開発評価人材育成研修（初級）は平成 30 年 11 月 27 日・28 日の二日間にわたり開催。
- ◆全国の国公立大学等及び国立研究開発法人から、研究開発評価に係る部署に所属し、研究開発評価の業務に 1 年から 3 年程度従事している係員～課長級の事務職員等合計 37 名が参加。そのうち 32 名から回答があった。

1. 所属

①国立大学法人	56.3%	(18 名)
②大学共同利用機関法人	3.1%	(1 名)
③私立大学	15.6%	(5 名)
④独立行政法人	12.5%	(4 名)
⑤公立大学	12.5%	(4 名)

2. 主な職務内容（複数選択可のため人数はのべ人数）

①法人・機関評価	28.1%	(9 名)
②機関内の研究課題やプロジェクト等の評価	18.8%	(6 名)
③外部資金の獲得支援	59.4%	(19 名)
④RA/URA（リサーチアドミニストレーター）	9.4%	(3 名)
⑤IR（インスティテューショナル・リサーチ）	15.6%	(5 名)
⑥産学連携支援	31.3%	(10 名)
⑦その他	12.5%	(4 名)

3. 参加理由（2 つまで選択可能のため人数はのべ人数）

①職務上必要と感じたから	59.4%	(19 名)
②研修内容（講義）に興味があったから	50.0%	(16 名)
③講師が話を聞きたいと思う人だったから	9.4%	(3 名)
④前からこの研修を受けたいと思っていたから	6.3%	(2 名)
⑤上司に勧められたから	40.6%	(13 名)
⑥その他	0.0%	(0 名)

4. 講義内容

（1）【講義①】研究開発評価に関する最近の政策動向

（文部科学省科学技術・学術政策局企画評価課課長補佐 國分 玲子）

（I）満足度

①とても満足した	28.1%	(9 名)
②満足した	71.9%	(23 名)
③やや不満であった	0.0%	(0 名)
④不満であった	0.0%	(0 名)

《主な意見》

「とても満足した」「満足した」に回答

- ・ 政策動向をわかりやすく網羅的に教えていただき、満足が得られたため。来年度以降の話になるとは思いますが、「今の基本計画／大綱指針」のみならず、「次の基本計画には何を盛り込みたいのか（総合政策特別委員会など科学審における議論）」、「次はどのように大綱指針を変えていきたいのか（CSTI等の議論）」といった「これから」の話も伺えると、より満足度が高くなると思います。
- ・ 国の研究開発評価の全体像を掴むことができました。

(Ⅱ) 参考の程度

①すぐに活用できる部分が多い	28.1%	(9名)
②将来的には役立ちそう	59.4%	(19名)
③あまり役立ちそうにはない	3.1%	(1名)
④まったく役立ちそうにはない	0.0%	(0名)
⑤どちらとも言えない	9.4%	(3名)

《主な意見》

「すぐに活用できる部分が多い」「将来的には役立ちそう」に回答

- ・ すでに弊機構の目標・計画等にも取り込まれている政策要求（国家コア技術、外部資金の獲得増）も含め、上位の政策要求を体系的に理解することができたため。
- ・ 理事等との意見交換を行ううえで、参考になるデータ及び背景を再認識できた。
- ・ プロジェクトで失敗してもプログラム全体で成功していれば、多少の失敗は良いということ、また、当初掲げていた達成目標に到達しなかったとしても、チャレンジングな研究には、別の成果や他への波及効果があるということが業務をする上で参考になった。

「あまり役に立ちそうにはない」「どちらとも言えない」に回答

- ・ 既に知っている内容がほぼであった
- ・ 業務を進める上で知っておくべき知識と考えるが、政策的な内容のため間接的な活用になると考えるため。

(2) 【講義②】 研究開発評価の意義と枠組み

(成城大学社会イノベーション学部長 伊地知 寛博)

(Ⅰ) 満足度

①とても満足した	34.4%	(11名)
②満足した	56.3%	(18名)
③やや不満であった	9.4%	(3名)
④不満であった	0.0%	(0名)

《主な意見》

「とても満足した」「満足した」に回答

- ・ 研究開発評価全体の枠組みを学ぶという、研修の参加目的にちょうど合致するテーマであり、内容も非常にわかりやすく、きわめて高い満足度が得られたため。
- ・ 講義を受け、改めて大学で行っている研究支援施策がアセスメント型であることを気づかされたため。
- ・ 国語で言うところの「評価」が英語に直すと多様な意味があり、評価といってもどの側面に焦点を当てるかによって、意味合いが異なることを知りよかった。

「やや不満であった」に回答

- ・ 知っている内容が多く、且つ情報が古いものが多いため。

(Ⅱ) 参考の程度

①すぐに活用できる部分が多い	31.3%	(10名)
②将来的には役立ちそう	65.6%	(21名)
③あまり役立ちそうにはない	0%	(0名)
④まったく役立ちそうにはない	0%	(0名)
⑤どちらとも言えない	3.1%	(1名)

《主な意見》

「すぐに活用できる部分が多い」「将来的には役立ちそうだ」に回答

- ・ 現在検討中の中期目標計画の策定において、この講義で学んだ知見を踏まえて案の作成を行っている。
- ・ アウトプットとアウトカムの相互関係が理解できた。
- ・ 講義で学んだことを踏まえた上で、目の前の研究環境や業務を見直してみたい。違った捉え方をできるのではないかと思う。難しいとは思いますが、研究者や機関等にとって有意義で次に繋がる「評価」を目指したい。
- ・ 評価ということばがつくものが多数あり、評価という名前がつくものを一括で評価担当部署が押しつけられているのを目にしていた。研修の翌日に、研修で得た知識を共有することで、評価業務の切り分けに役立ちました。ありがとうございます。

「どちらとも言えない」

- ・ 知っている内容が多く、且つ情報が古いものが多いため。

(3) 【ワークショップ①】 自己紹介と現場の課題の共有

(Ⅰ) 満足度

①とても満足した	46.9%	(15名)
②満足した	43.8%	(14名)
③やや不満であった	6.3%	(2名)
④不満であった	3.1%	(1名)

《主な意見》

「とても満足した」「満足した」に回答

- ・ 班に関係なく、色々な方と直接コミュニケーションをとることができたため。
- ・ 2日目のワークショップの活性化につながる面白い内容であったため。
- ・ 自分の立場と近い方、およびもっと上の立場の方からの視点・意識それぞれを聞くことができ、大変参考になった。
- ・ 前半にアイスブレイクが導入されていたことにより、世代、職種の枠を超えてコミュニケーションを取ることが円滑になったと思う。
- ・ 各研究機関等において同じく研究支援をしている人を対象とした研修であることから、もっと同質な人の集団であろうと思い込んでいたが、多様であることを初日に確認することができ、2日目に向けた準備や心構えができた。
- ・ 初対面の方々の会話のきっかけとして、名札と自信の属性等を示すシールを使用するのは、非常に有用に思いました。小湊先生主導のもと、非常に和やかな雰囲気を作ることができたことも、その後の流れに非常にプラスになったかと思えます。ありがとうございました。

「やや不満であった」に回答

- ・ ワークショップという定義から外れる。(内容はほぼアイスブレイク)。

(Ⅱ) ワークショップ①の時間

①十分だった	46.9%	(15名)
②もう少し時間がほしかった	37.5%	(12名)
③かなり時間が足りなかった	12.5%	(4名)
④長かった	3.1%	(1名)

《主な意見》

「とても満足した」「もう少し時間がほしかった」に回答

- ・ これ以上長くなると内容が硬くなりそうで、これ以上短いとなかなか共感が難しくなりそうな、程よい時間配分であったと考えられるため。
- ・ 課題に対して各人がどのように対処したか、どのような点に問題意識を持っているかを共有するには時間が十分ではなかった。
- ・ もう少し、具体的に話しをする時間が欲しかった。

「長かった」に回答

- ・ 現場の課題は、共有できませんでした。

(3) 【講義③】 研究課題（プロジェクト）の評価

(政策研究大学院大学専門職 安藤 二香)

(Ⅰ) 満足度

①とても満足した	46.9%	(15名)
②満足した	53.1%	(17名)
③やや不満であった	0.0%	(0名)
④不満であった	0.0%	(0名)

《主な意見》

「とても満足した」「満足した」に回答

- ・ ファンディング制度における評価について非常に理解が進み満足が得られたため。さらにお願ひすればとなりますが、「研究開発課題（プロジェクト）」という観点では、ファンディング事業以外にも、例えば法人の内部資金で行うプロジェクト（JST 以外の7 国立研究開発法人の研究開発や大学等）の事例を取り上げると、より理解が進んだかなと思います。
- ・ 成果を最大化するためのコミュニケーションツールとして「評価」というものを位置づけているという新しい視点を得ることができました。
- ・ ファンドの立上げやマネジメント側の思想が聞けて、ファンドや評価を受ける側および学内でファンドや評価を付与する側として留意すべきことのヒントが得られた。
- ・ 事業実施者の事業に対する思いを伺う貴重な機会であったため。
- ・ 配分機関側のお話・ご意見を直接伺えたことは有意義であったため。
- ・ RISTEX という比較的特殊な事業ではあるが、ファンディングエージェンシーにおいて研究マネジメントに携る先生のお話や考えを聞くことができとても参考になった。RISTEX が立ち上がった当初はボトムアップ型の研究が主流であった中で、これだけの事業を立ち上げ定着させるまでには、多くの苦労があったのではないかと思う。そうしたことも今後ぜひ取り纏めて発信して欲しい。
- ・ ファンディング・プログラムのマネジメントを行う現場の様子等をご説明くださり、評価の視点やプログラムマネジメントの重要性についての理解を深めることができました。

（Ⅱ）参考の程度

①すぐに活用できる部分が多い	46.9%	(15名)
②将来的には役立ちそう	43.8%	(14名)
③あまり役立ちそうにはない	3.1%	(1名)
④まったく役立ちそうにはない	0.0%	(0名)
⑤どちらとも言えない	6.3%	(2名)

《主な意見》

「すぐに活用できる部分が多い」「将来的には役立ちそうだ」に回答

- ・ 研究開発評価の理解のみならず、ファンディング事業に対して魅力的な提案を行うためのノウハウという点でも非常に参考となったと考えられるため。
- ・ ロジック・モデルの作成とまではいなくても前もって頭の中にイメージすることは、評価に関わらずあらゆる業務で重要になると感じ、良い気付きになったため。
- ・ 学内の競争的資金制度の改善のヒントとなる視点がいくつかあったため。
- ・ 今後の外部資金獲得支援で、ポストアワードを意識した企画を提案する動機付けとなった。
- ・ 「研究費の獲得」や、「研究やそれに携る人を育む」うえで、ロジックモデルに落として考えるということを試みたい。研究者と進捗等について共通認識をもつうえでも役立つと思われる積極的に活用していきたい。

(4) 【講義④】 研究開発機関の評価、研究者等の業績評価
(政策研究大学院大学政策研究科教授 林 隆之)

(I) 満足度

①とても満足した	43.8%	(14名)
②満足した	53.1%	(17名)
③やや不満であった	3.1%	(1名)
④不満であった	0.0%	(0名)

《主な意見》

「とても満足した」「満足した」に回答

- ・ 他の大学がどのように長のビジョンを示し、それを経営戦略、部署ごとの計画へと落とし込んでいき、評価するのかという事例に触れることができ、高い満足度が得られたため。
- ・ 学内での研究開発評価はどの大学・機関も悩むところであり、ヒントになる内容が多かった。もう少し時間がほしかった。
- ・ 初めて知ったことばかりで「そうなんだ」というのが偽らざる感想で、でも満足しています。
- ・ 2軸での分析が斬新だった。On Going で進められる新たな評価指標について理解を深めることができた。

「やや不満であった」に回答

- ・ 知っている内容が多く、且つ情報が古いものが多いため。

(II) 参考の程度

①すぐに活用できる部分が多い	31.3%	(10名)
②将来的には役立ちそう	65.6%	(21名)
③あまり役立ちそうにはない	0.0%	(0名)
④まったく役立ちそうにはない	0.0%	(0名)
⑤どちらとも言えない	3.1%	(1名)

《主な意見》

「すぐに活用できる部分が多い」「将来的には役立ちそう」に回答

- ・ 特に広島大学における AKPI 導入事例などは、弊機構にはない考え方で、経営目標を達成するために各部署、各職員がどこまで貢献できるかという斬新な目標設定方法は、弊機構の中長期目標・計画の達成を検討していくうえでも非常に参考になるように感じられたため。
- ・ 様々な評価手法がある中、九州大学のバランススコアカードの参考事例は、今後、評価指標を検討していくうえでも参考になったため。
- ・ これから実際に始まる平成 28 年度評価に向けて、各研究者等の業績評価を行う上での目安や指標となる事項が多く含まれていた。

(5) 【講義⑤】 ロジックモデルと大学・研究機関における課題

(名古屋大学教授、教養教育院副院長・評価企画室副室長 栗本 英和)

(I) 満足度

①とても満足した	62.5%	(20名)
②満足した	34.4%	(11名)
③やや不満であった	3.1%	(1名)
④不満であった	0.0%	(0名)

《主な意見》

「とても満足した」「満足した」に回答

- ・ 前日の復習も含め、体系的に全体像を再確認することができたほか、研究開発評価のみならず、企業等の経営戦略にも触れることができ、また、ワークショップに向けた予習としても高い満足度が得られたため。
- ・ 課題と問題や、ビジョン、KPI と KGI 等々、よく使われるが定義はよくわからない言葉について、勉強できたのが良かった。これももう少し長くても良いと思った。
- ・ PDCA サイクルから CAPP への見方は、目から鱗でした。
- ・ 前日に受講者から出た疑問に対応いただける等、なんて手厚い研修なのかと感動しました。実際に補足を加えていただけたおかげで、前日の研修の理解も深まりました。

(II) 参考の程度

・ ①すぐに活用できる部分が多い	53.1%	(17名)
・ ②将来的には役立ちそう	43.8%	(14名)
・ ③あまり役立ちそうにはない	0.0%	(0名)
・ ④まったく役立ちそうにはない	0.0%	(0名)
・ ⑤どちらとも言えない	3.1%	(1名)

《主な意見》

- ・ 研究開発評価全体の枠組みを学ぶという、研修の参加目的にちょうど合致するテーマであり、今後の弊機構内における研究開発評価業務に役立てることができると考えられるため。
- ・ 本学で計画している研究組織の指標設定にすぐにも活用できると感じた。
- ・ 実際にロジックモデルを活用する場面だけでなく、自身の頭の中で事象を論理的に整理するための、考えたのツールとしても役立てることができると思いました。
- ・ 直接、研究関係業務に携わっていないが、法人評価や認証評価でも、目的→目標→計画とロジカルな展開が必要であり、整理手法として有意義と感じたため。
- ・ 道筋については、常にこのような思考パターンで臨み、OJT で身に付けていきたい。

(5) 【ワークショップ②】 ロジック・モデル作成ワークショップ

(名古屋大学教授、教養教育院副院長・評価企画室副室長 栗本 英和／日本学術振興会総務企画部上席分析官 遠藤 悟／小湊 卓夫 九州大学基幹教育院准教授／茨城大学全学教育機構准教授 鳶田 敏行／林 隆之 政策研究大学院大学政策研究科教授／花田昌公 海洋研究開発機構研究推進部長／丸山 亮介 理化学研究所経営企画部評価推進課長)

(I) 満足度

①とても満足した	53.1%	(17名)
②満足した	40.6%	(13名)
③やや不満であった	6.3%	(2名)
④不満であった	0%	(0名)

《主な意見》

「とても満足した」「満足した」に回答

- ・ さまざまなバックグラウンドを持つ他法人の職員の方と、ともに考え、共同作業を行うことで、他法人での取り組みなどに触れることもでき、非常に好奇心と刺激が得られ、研修プログラム中最も高い満足感が得られたため。当初は、どのように議論をまとめ、進めていくかという点で迷走しそうな場面も見られたものの、ファシリテータやメンバーの皆様の助けを得てまとめることが出来たという点で大きな達成感も感じている。具体的なテーマをもらって考えることで、前日の講義内容を体感的に考えることができた。
- ・ 講義では理解したつもりになっていたが、実際に体験してみるとなかなか難しかった。異なるバックグラウンドの参加者と協働で作成したことで、同職種であっても多様な捉え方があることに驚いた。自分一人では思いつかないようなアイデアに触れることができ非常に興味深かった。
- ・ 研修に参加される機関では、ロジックモデルによる企画立案は多くの分野に応用されるものだと思います。ワークショップに参加する機会ありよかったです。
- ・ このようなワークショップの経験が少なく、当初はどのように完成に近づいていくのかイメージが持てていませんでした。ファシリテータの先導や参加者の積極的なアイディアにより少しずつロジックモデルが完成し、大変勉強になりました。

(II) 参考の程度

①すぐに活用できる部分が多い	50.0%	(16名)
②将来的には役立ちそう	46.9%	(15名)
③あまり役立ちそうにはない	0.0%	(0名)
④まったく役立ちそうにはない	0.0%	(0名)
⑤どちらとも言えない	3.1%	(1名)

《主な意見》

「すぐに活用できる部分が多い」「将来的には役立ちそうだ」に回答

- ・ 研究施策の立案について、一つ一つのステップに区分し、またその関連性を意識するなど、

整理して進める大切さと難しさを実感したため。

- ・ 大変ためになるワークショップだったのですが、もっと深い議論をするには時間が足りないと感じた。
- ・ 価値観の異なる者が意思統一するためのツールとして大変有意義だと思った。日頃の業務に活かせると思う。
- ・ 機関の方と意見を調整するというのが、研究者との調整に通じるものがあり今後役に立つと感じられた。

「どちらともいえない」に回答

- ・ 既に業務でやっていること以上ではない。

(Ⅲ) ワークショップの時間

①十分だった	62.5%	(20名)
②もう少し時間が欲しかった	37.5%	(12名)
③かなり時間が足りなかった	0.0%	(0名)
④長かった	0.0%	(0名)

《主な意見》

「十分だった」に回答

- ・ 思考、作業時間を含めてちょうど時間内に完了することができ、十分だったと感じている。多少、時間的に余裕のない方が、分業・共同作業へのインセンティブが働きやすいという観点からも非常にちょうどよい時間配分であったと思われる。議論が熱して残り時間を忘れそうになった際に、それとなくファシリテータの方からリマインドがあったこともありがたく感じている。
- ・ ファシリテータの助言をいただきながら、グループ活動をし、ロジックモデルが完成できたので、いい時間と思いました。
- ・ ファシリテータの先生が時間配分や論点整理をしてくださったからこそではあるが、一通りのプロセスを経験することができ、適度な時間配分との印象をもった。発表時間は「短いのでは？」と思っていたが、要点が整理された発表を聞くことができ良かった。

「もう少し時間が欲しかった」「かなり時間が足りなかった」に回答

- ・ 清書までいっていない班もあったため、もう少し時間があっても良いのではと感じた。
- ・ スケジュールを見たときは十分な時間のように思えたが、いざ進めてみると様々な意見があり集約して成果物の完成度を高めるためには、あと1時間ほどあると良いと思ったため。
- ・ ディスカッションの時間は十分でした。限られた時間では難しいかもしれませんが、他班とディスカッションする機会があると、さらに有益かもしれないと思いました。
- ・ ロジック・モデル作成に不慣れな部分があり、少し時間が足りなかった。

4. 運営等

(1) 研修全体の満足度

①とても満足した	59.4%	(19名)
②満足した	37.5%	(12名)
③やや不満であった	3.1%	(1名)
④不満であった	0.0%	(0名)

《主な意見》

(満足の声)

- ・ 2日間という限られた時間の中でもバラエティに富んだ講義がラインナップされており、また、適切なタイミングでワークショップが挿入されていることで、全体的に飽きさせない工夫がされていると感じた。
- ・ 講師並びに運営に携わられた文科省職員の方々のご尽力により、密度の濃い研修を円滑に進行いただき厚く御礼申し上げます。
- ・ 研究評価のアセスメントの部分の他に、研究した事象の事後的な評価の手法もより詳しく講義していただき良かったです。

(今後の課題に向けて)

- ・ ・どこでも同じ話が多く、情報の更新がなされていない(過去から同じ)
1日目について「ワークショップ」を組み込むなら、抜本的に設計し直す必要がある。「評価コミュニティ」になってしまっているように見受けられ、外の情報が必要ではないか。(研究スタイルは刻々と変化をし、企業等は日進月歩で変わっている中、変化してないように見受けられる)。
- ・ 座学を減らしてワークショップを増やして欲しい。
- ・ 全体的に満足ですが、60分講義は連続であると中だるみ感が出てしまい、次回からは説明20～30分、質疑応答5分とかにさせていただけるとメリハリがついて良いなと思いました。
- ・ また、例示があった講義はとても興味深くて分かりやすかったので、来年度は出来れば例様々な例示を教えて頂けると幸いです。
- ・ 初日のグループディスカッションはほぼ自己紹介で終わってしまい、明日のワークショップに関して何を議論するのかを決める時間までであると、次の日すぐにディスカッションしやすかったかなと思いました。また、各法人の悩み等も話し合える時間があると幸いです(次の日は議題関する議論中心ととなってしまう、各法人の取り組みや悩み等を聞いたり話したりできなかった)。
- ・ ワークショップではファシリテーターとリーダーの違いが分からず、結局ファシリテーターの方がリーダーとなって仕切っていただいたのでリーダーは不要な印象を受けました。

(2) 研修実施希望時期

①4月～6月	0.0%	(0名)
②7月～9月	25.0%	(8名)
③10月～12月(今回)	68.8%	(22名)
④1月～3月	0.0%	(0名)
⑤その他	6.3%	(2名)

《主な意見》

- ・ 研究開発にかかる用語が少し定着した時期が望ましいと考えるため（10月くらいまでがベストと考えます）。
- ・ 科研費が終わって一段落というこの時期が一番スケジュールの調整がしやすい。
- ・ 4～6月は時期的にこれらの課題について腰を据えて考えるのは難しいと思う。7～9月であれば、全体的に落ち着き、考えやすい時期だと思う。今回の12月は次年度以降に研修内容を生かすには少し遅いように感じる。
- ・ 11月または12月が良い。主要な公募等も終了し、年度末に入る前という、年間でも最も時間や気持ちに余裕もてる時期。
- ・ 講師並びに運営に携わられた文科省職員の方々のご尽力により、密度の濃い研修を円滑に進行いただき厚く御礼申し上げます。

（3）研修希望日数

①1日	6.3%	（2名）
②2日（今回）	87.5%	（28名）
③3日	6.3%	（2名）
④その他	0.0%	（0名）

（4）研修人数

①20人程度	0.0%	（0名）
②30人程度	9.4%	（3名）
③40人程度（今回）	78.1%	（25名）
④50人程度	9.4%	（3名）
⑤その他	3.1%	（1名）

（5）研修スタイル

①講義形式	0.0%	（0名）
②講義形式で一部ワークショップ（今回）	75.0%	（24名）
③ワークショップ形式中心	21.9%	（7名）
④その他	0.0%	（0名）

（6）研修受講前の「研究開発評価」の理解について

①正しく認識（理解）していた	0.0%	（0名）
②おおむね正しく認識（理解）していた	31.3%	（10名）
③あまり理解していなかった	43.8%	（14名）
④ほとんど理解していなかった	25.0%	（8名）
⑤その他	0.0%	（0名）

（7）中級編・上級編を企画した場合の需要

①ぜひ参加したい	37.5%	（12名）
②プログラム内容によっては参加したい	46.9%	（15名）
③時期・場所などの都合があれば参加したい	12.5%	（4名）
④どちらとも言えない	3.1%	（1名）

(8) 研究開発評価人材育成研修（初級）として、今後取り上げてほしいテーマ又は講義内容

- ・ 非ファンディング機関における研究開発評価（プロジェクトマネジメント）について伺える機会があれば、大変参考になると思います。ただし、各法人とも規模や分野が異なるため、一般論としての講義が難しいというのが難点でしょうか。
- ・ 適切な指標とは何か、また具体的な定量的・定性的指標をどのように設定すればいいのか。
- ・ 機関の担当者が研究開発評価に臨む際は、実際の各研究プロジェクトや、プロジェクトを進める研究者に対する理解が必要になると思います。研究プロジェクトの中で、業績（研究論文等）が生み出されるタイミングとプロジェクト自体の視点の違い等を実例に沿って理解したいと思いました。事例研究のような講義かワークショップがあれば有益だと思います。実施した研究の事後評価の手法（研究テーマにより短期で効果を得られないものがあるかと思いますが、事後評価手法の事例があればより具体的に）。
- ・ 国内に限らず国外での研究開発評価取組事例など。
- ・ ・本流からはそれるかも知れないが、研究開発評価を知財への取組に活用できないか。（申請や維持など資本投下が必要だが、適切な研究開発評価による支援で知財収入を得るに至った事例などあるか）。

(9) 全体に関する主なご意見・ご要望

（全体的な満足度について）

- ・ 外部資金獲得戦略の観点から、本研修に興味を持ち、参加したのだが、目標や計画を策定するためには評価が重要である、ということまで十分に理解していなかったため、大変勉強になった。一般的な評価人材育成研修であれば、おそらく法人評価や認証評価の担当部署に案内通知が展開されていたかと思う。研究開発評価というテーマでの研修は、とても貴重だと感じた。
- ・ 先生方とお話させていただく機会があり、とても勉強になった。ワークショップも良いが、担当業務が同じ人同士で悩みや解決策を共有し、講師や経験者の経験に基づくアドバイスを拝聴する機会があれば大変嬉しい。評価は組織内でそういった話を共有しづらい部署なので。
- ・ 文部科学省でこういった研修が受けれるとは考えていなかった。今後もこのような機会を増やしていただけると有難い。

（全体的な研修内容について）

- ・ 懇親会等で十分質問をする機会があったので、特に問題はありますが、可能であれば、講義の都度、質疑応答の機会をいただければ幸いです。
- ・ アンケート中では該当する欄がありませんでしたので、割愛いたしましたが、研修冒頭の戦略官のお話（国際比較として、科技に対する政府投資成果の旗色が悪い）がとても印象に残っております。
- ・ 研究開発業務の担当1年目に受講すると大変有意義な研修であると感じたため、プログラム内容はそのままに定員以上の申し込みがあった場合は、経験年数のバランスよりも担当1年目の職員を優先して受講させると良いと考える。
- ・ 研修機会をいただきありがとうございました。私見ですが、「相談に応じる」等の形で、従事年数が1年未満の参加の可能とさせていただくとありがたいのではないかと思います。